

4 半期調査

平成 28 年 1 月～3 月

■ 中小企業景況調査

平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

1. 建設業

(1) 前年同期比（平成 27 年 1 月～3 月）

前年同期の景況と比較して、完成工事高は△33 ポイント、受注額は△33 ポイントとなっており、事業環境の厳しさがうかがえる。

また、材料仕入単価は「上昇した」が「低下した」を 11 ポイント上回っており、採算が悪化（△25 ポイント）、業況が悪化（△44 ポイント）したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

(2) 前期比（平成 27 年 10 月～12 月）

前期の景況と比較して、完成工事高は△33 ポイントとなっている。

完成工事高が「減少した」とする事業者の割合が多いものの、資金繰りに関しては、「好転した」が「悪化した」を 29 ポイント上回る結果となっており、資金繰りの改善が図られたことがうかがわれる。

業況に関しては、「悪化した」が「好転した」を 14 ポイント上回る結果となっており、業況は「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し（平成 28 年 4 月～6 月）

今後の景況に関しては、完成工事高は△22 ポイント、受注額は△25 ポイントとなっており、厳しい受注環境を想定している。

また、材料仕入単価に関しても「上昇する」が「低下する」を 25 ポイント上回っており、材料仕入単価の値上がりを想定する事業者の割合も多い。

採算は△57 ポイントと大幅悪化、資金繰りは△14 ポイント、業況は△25 ポイントとあるように、今後の事業環境は「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 事業者のコメント

①この地域で商売をすると冬期間の過ごし方が大変重要になる。雪に頼ってばかりではなく、雪が降らなくても安定した売上を上げられるように対処する必要がある。

②若い従業員が育たない。入社しても頑張ろうと努力しない。

③仕事（新築工事）は忙しいが、お客様の建物にかけられる予算が弊社の提示する金額に合わないため、高性能住宅がなかなか建ててもらえず、もどかしい。

【完成工事高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	22%	22%	56%	-33%
前期	22%	22%	56%	-33%
見通し	22%	33%	44%	-22%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	14%	71%	14%	0%
前期	29%	71%	0%	29%
見通し	14%	57%	29%	-14%

【受注額】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	22%	22%	56%	-33%
前期	-	-	-	-
見通し	25%	25%	50%	-25%

【材料仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	11%	89%	0%	11%
前期	-	-	-	-
見通し	25%	75%	0%	25%

【採算(経常利益)】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	13%	50%	38%	-25%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	43%	57%	-57%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	88%	13%	-13%
前期	-	-	-	-
見通し	14%	71%	14%	0%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	11%	33%	56%	-44%
前期	29%	29%	43%	-14%
見通し	13%	50%	38%	-25%

【従業員(含臨時・パート)】

	過剰	適正	不足
	1	6	1

2. 小売業

(1) 前年同期比(平成27年1月～3月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△18ポイントとなっている。客数と客単価を見比べると客数は△36ポイント、客単価は△18ポイントとなっており、客数の減少、客単価の低下を認識する事業者の割合が多い。

商品仕入単価は±0ポイント(「上昇した」:18ポイント、「低下した」:18ポイント)となっている。

採算は±0ポイント(「好転した」:18ポイント、「悪化した」:18ポイント)、資金繰りも±0ポイント(「好転した」:9ポイント、「悪化した」:9ポイント)であるものの、業況は△9ポイントであり、売上高の減少により、業況が「悪化した」とする事業者の割合が多い結果となっている。

(2) 前期比(平成27年10月～12月)

前期の景況と比較して、客数は△9ポイント、客単価は±0ポイント(「上昇した」27ポイント、「低下した」27ポイント)であるが、売上高は9ポイント良化した(「増加した」36ポイント、「減少した」27ポイント)結果となっている。

しかし、業況に関しては、「悪化した」が「好転した」を22ポイント上回っており、業況は「悪化した」と回答する事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し(平成28年4月～6月)

今後の景況に関しては、客数は△36ポイント、客単価は△27ポイント、売上は△36ポイントと厳しい売上環境を想定している。

また、資金繰りは△9ポイント、業況は△20ポイントとあるように、今後の事業環境は「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

- ①扱ひ品目の需要がとても下がっている。これからもさらに厳しくなると思われる。
- ②少雪により、商品が出ない。売上減少により厳しい状況。
- ③前年同様であり、特に業況は変わらず。
- ④暖冬小雪のため、売上が低迷。販売単価の下落による売上高の減少で厳しい状況である。

【売上高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	45%	36%	-18%
前期	36%	36%	27%	9%
見通し	9%	45%	45%	-36%

【客単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	9%	64%	27%	-18%
前期	27%	45%	27%	0%
見通し	9%	55%	36%	-27%

【客数】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	64%	36%	-36%
前期	18%	55%	27%	-9%
見通し	9%	45%	45%	-36%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	9%	82%	9%	0%
前期	9%	82%	9%	0%
見通し	9%	73%	18%	-9%

【商品仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	18%	64%	18%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	9%	82%	9%	0%

【商品仕入額】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	45%	36%	-18%
前期	-	-	-	-
見通し	18%	64%	18%	0%

【商品在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	18%	64%	18%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	9%	73%	18%	-9%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	18%	64%	18%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	9%	82%	9%	0%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	100%	0%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	90%	10%	-10%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	18%	55%	27%	-9%
前期	11%	56%	33%	-22%
見通し	0%	80%	20%	-20%

【従業員(含臨時・パート)】

過剰	適正	不足
1	9	1

3. 製造業

(1) 前年同期比(平成27年1月～3月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△56ポイントと「減少した」とする事業者の割合が増加。売上数量は△56ポイント、売上単価は△11ポイント、設備操業率は△50ポイ

ントとなっており、売上数量の減少、売上単価の低下が大きな要因と考えられる。

原材料仕入単価は、「上昇した」が「低下した」を 25 ポイント上回り、採算が悪化（△67 ポイント）、資金繰りが悪化（△44 ポイント）したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

業況に関しては、「悪化した」が「好転した」を 56 ポイント上回り、業況の大幅な悪化を示す結果となっている。

(2) 前期比（平成 27 年 10 月～12 月）

前期の景況と比較して、売上高は△89 ポイントと大幅に悪化している。

売上数量は△89 ポイント、売上単価△11 ポイントとなっており、売上数量の減少が主要因と考えられる。

資金繰りは△44 ポイント、業況は△50 ポイントといずれも「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し（平成 28 年 4 月～6 月）

今後の景況に関しては、売上高は△56 ポイント、売上数量が△50 ポイント、売上単価は△13 ポイント、売上数量減、売上単価低下を伴う厳しい受注環境を想定している。

また、原材料仕入単価に関しては、「上昇する」が「低下する」を 38 ポイント上回っており、原材料仕入単価の上昇を想定する事業者の割合が多い。

採算は△67 ポイント、資金繰りは△38 ポイント、業況は△44 ポイントとあるように、今後の事業環境が「悪化する」とする事業者の割合が多くなっている。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「不足である」としている。

(5) 事業者のコメント

①受注量が減少している。顧客各社の引合いも減ってきている。

②取引先の業況が悪化しているようで、売上が上がらない。今後、数カ月続く様子。同業他社の競り込みもあり、ますます売上単価の低下が見込まれる。

③受注量や利幅の安定した取引先を有しており、極端に悪化することはないと考えている。

【売上高】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	11%	22%	67%	-56%
前期	0%	11%	89%	-89%
見通し	11%	22%	67%	-56%

【売上単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	0%	89%	11%	-11%
前期	0%	89%	11%	-11%
見通し	0%	88%	13%	-13%

【売上数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	11%	22%	67%	-56%
前期	0%	11%	89%	-89%
見通し	13%	25%	63%	-50%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	56%	44%	-44%
前期	0%	56%	44%	-44%
見通し	0%	63%	38%	-38%

【原材料仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	25%	75%	0%	25%
前期	-	-	-	-
見通し	38%	63%	0%	38%

【原材料在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	13%	50%	38%	-25%
前期	-	-	-	-
見通し	13%	50%	38%	-25%

【製品在庫数量】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	14%	57%	29%	-14%
前期	-	-	-	-
見通し	14%	57%	29%	-14%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	33%	67%	-67%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	33%	67%	-67%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	0%	100%	0%	0%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	100%	0%	0%

【設備操業率】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	0%	50%	50%	-50%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	63%	38%	-38%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	44%	56%	-56%
前期	0%	50%	50%	-50%
見通し	0%	56%	44%	-44%

【従業員(含臨時・パート)】

	過剰	適正	不足
	0	7	2

4. サービス業

(1) 前年同期比(平成27年1月～3月)

前年同期の景況と比較して、売上高は△44ポイント、利用客数は△50ポイント、客単価は△13ポイントであり、利用客数が「減少した」とする事業者が目立つ。

仕入単価は、「上昇した」が「低下した」を33ポイント上回り、採算が悪化(△44ポイント)、資金繰りが悪化(△13ポイント)したとする事業者の割合を増やしたと考えられる。

業況に関しては、「好転した」を「悪化した」が50ポイント上回る結果となっており、業況が「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(2) 前期比(平成27年10月～12月)

前期の景況と比較して、売上高は△25ポイントとなっている。

利用客数は△38ポイント、客単価は△13ポイントと利用客数が「減少した」とする事業者が目立つ。

資金繰りは△7ポイント、業況は△7ポイントとあるように、資金繰り、業況ともに「悪化した」とする事業者の割合が多くなっている。

(3) 今後の見通し（平成 28 年 4 月～6 月）

今後の景況に関しては、売上高は△13 ポイント、利用客数は△13 ポイント、客単価は△6 ポイントと厳しい売上環境を想定している。

仕入単価も「上昇する」が「低下する」を 13 ポイント上回っており、仕入単価の上昇を想定する事業者の割合も多い。

採算は△20 ポイント、業況も△8 ポイントと悪化を見込む事業者が多い。

(4) 雇用の過不足

現状の人員構成は「適正である」とする事業者が多いが、一部の事業者は「過剰・不足がある」としている。

(5) 業況判断の背景に関する事業者のコメント

①高齢化社会と併せて、人口減少により需要量が低下している。この状況は止まることなく、更に厳しさを増し、景気低迷に拍車をかけるものと考えられる。今後においては、業況を把握の上、適切な対応をすることが必要。

②まれに見る小雪で、スキー客、雪を見たい方に選ばれづらくなった。

③お客様のニーズが多様に変化するため、対応に苦労している。

④新規の飲食店が増加しており、競争が厳しくなっている。

⑤従業員の確保が難しくなっており、従業員の負担増加とサービスの質の低下がある。

⑥新規参入業者の影響と同業者の競争激化などに加えて、景気の低迷が重なった。

【売上】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	19%	19%	63%	-44%
前期	25%	25%	50%	-25%
見通し	13%	63%	25%	-13%

【客単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	6%	75%	19%	-13%
前期	0%	88%	13%	-13%
見通し	6%	81%	13%	-6%

【利用客数】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	19%	13%	69%	-50%
前期	19%	25%	56%	-38%
見通し	19%	50%	31%	-13%

【資金繰り】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	6%	75%	19%	-13%
前期	14%	64%	21%	-7%
見通し	0%	81%	19%	-19%

【仕入単価】

	上昇	不変	低下	DI
前年同期	40%	53%	7%	33%
前期	-	-	-	-
見通し	20%	73%	7%	13%

【採算】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	0%	56%	44%	-44%
前期	-	-	-	-
見通し	0%	80%	20%	-20%

【従業員(含臨時・パート)】

	増加	不変	減少	DI
前年同期	7%	80%	13%	-7%
前期	-	-	-	-
見通し	7%	86%	7%	0%

【業況】

	好転	不変	悪化	DI
前年同期	6%	38%	56%	-50%
前期	20%	53%	27%	-7%
見通し	8%	77%	15%	-8%

【従業員(含臨時・パート)】

過剰	適正	不足
1	11	3

5. 設備投資の状況

■建設業

平成28年1月～3月	今期	来期
実施していない(計画していない)	8	8
実施した(計画している)	1	1
<実施内容>		
土地	0	0
建物	0	0
建設機械	0	0
車両・運搬具	1	1
付帯施設	0	0
OA機器	0	0
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

■小売業

平成28年1月～3月	今期	来期
実施していない(計画していない)	10	8
実施した(計画している)	1	3
<実施内容>		
土地	0	0
店舗	0	2
販売設備	1	2
車両・運搬具	0	0
付帯施設	0	0
OA機器	0	1
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

■サービス

平成28年1月～3月	今期	来期
実施していない(計画していない)	14	11
実施した(計画している)	2	5
<実施内容>		
土地	0	0
建物	0	2
サービス設備	1	0
車両・運搬具	0	2
付帯施設	0	1
OA機器	0	1
福利厚生施設	0	0
その他	1	0

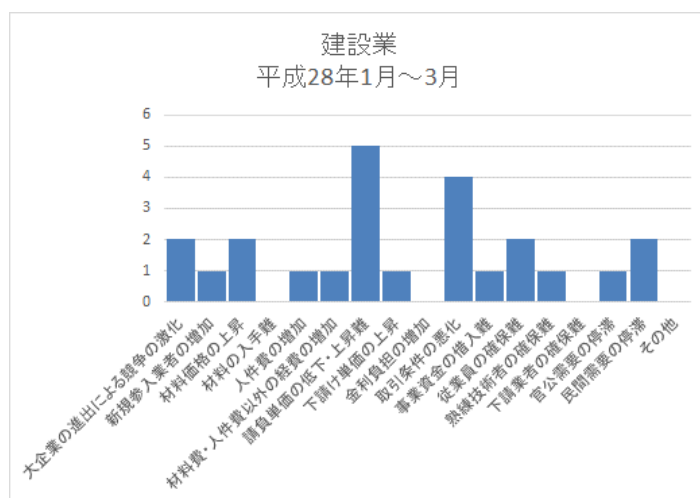
■製造

平成28年1月～3月	今期	来期
実施していない(計画していない)	9	7
実施した(計画している)	0	2
<実施内容>		
土地	0	0
工場建物	0	0
生産設備	0	2
車両・運搬具	0	0
付帯施設	0	0
OA機器	0	0
福利厚生施設	0	0
その他	0	0

6. 経営上の問題点

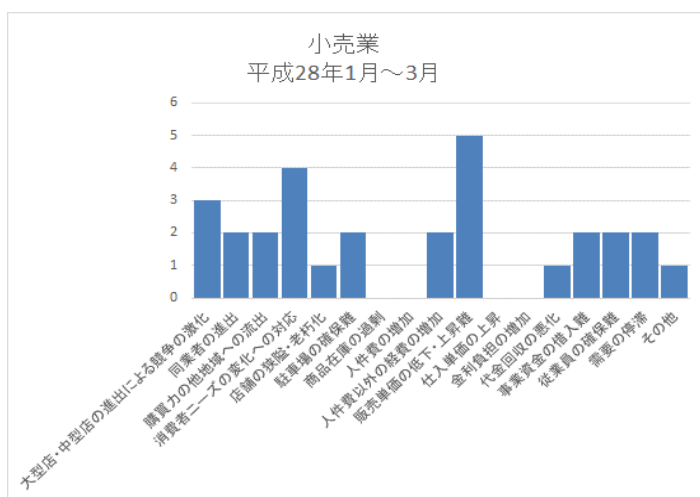
(1) 建設業

「請負単価の低下、上昇難」、「取引条件の悪化」を問題として挙げる事業者が多い。発注企業からのコスト引下げ要求の高まりや、支払いの長期化などが考えられる。



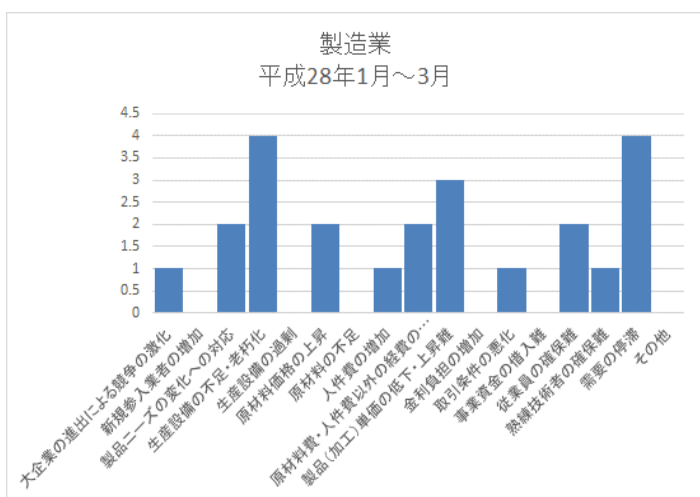
(2) 小売業

「販売単価の低下・上昇難」、「消費者ニーズの変化への対応」を問題として挙げる事業者が多い。デフレの進行や情報社会の中で早いスピードで移り変わる消費者ニーズへの対応に苦慮しているものと考えられる。



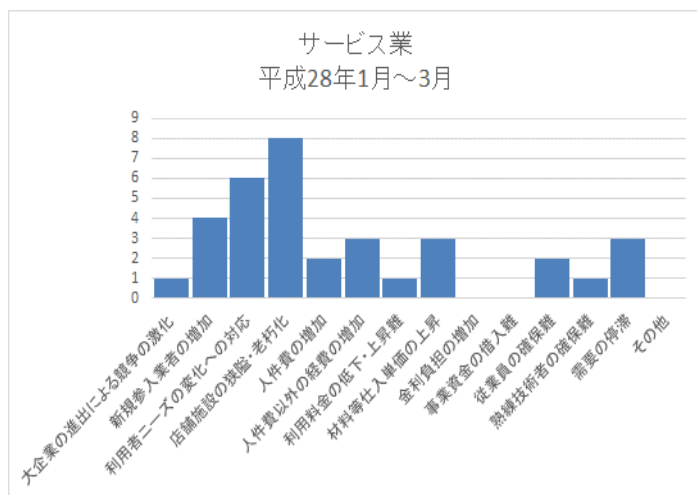
(3) 製造業

「需要の停滞」「生産設備の不足・老朽化」を問題として挙げる事業者が多い。需要そのものの低迷もあると思うが、生産設備の不足・老朽化の影響により、需要を掴み切れず、停滞という表現となっている可能性もある。



(4) サービス業

「店舗設備の狭隘・老朽化」、「利用者ニーズの変化への対応」を問題として挙げている事業者が多い。ニーズ対応のためには設備更新が必要と認識しながらも、先行きの不透明感により、手を付けられない現状があると考えられる。



以上